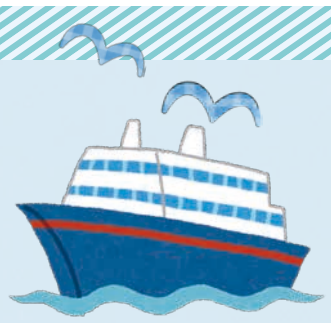


令和元年度 福岡市PTA協議会

親子ふれあい事業

マリエラ親子乗船体験

令和元年7月29日（月）～8月2日（金）　5日間開催

今年度、夏休みに開催しました「親子ふれあい事業 マリエラ乗船体験 親子ペアご招待」には、8,738組ものご応募をいただきました。福岡市ＰＴＡ協議会にて厳正な抽選を行い450組をご招待いたしました。取材当日は真夏日で、たいへん暑い中での乗船となりましたが、親子ペアでの参加だったため、とても和やかな雰囲気の船内となりました。クイズラリーのイベントも行われ、楽しく有意義なクルージングを体験していただきました。

発行所
福岡市中央区天神1丁目10-1
市庁舎北別館
福岡市PTA協議会
発行人
会長 西村早苗
広報委員会

福岡市PTA協議会
ホームページ
http://www.fukuokacity-pta.jp
福岡市PTA　検索

印刷（株）西日本新聞印刷

乗船体験の日程

1. 出港
2. 主催者代表あいさつ
3. マリエラ事業本部より安全講習会
4. 親子でクイズラリー
5. 帰港

さぁ！！マリエラの出港です

もうすぐ帰港です

安全講習会です

和やかな雰囲気の２人です

クイズラリーの途中で
ちょっと記念撮影！
気分は、船長さんです

クイズラリーの開始です

令和2年度 教育予算要望

教育環境の改善とＰＴＡ活動のさらなる充実を図るため、市内小・中・特別支援学校より出た意見をもとに教育問題委員会にて討議し、理事会の承認を経て、令和2年度教育予算要望を作成いたしました。

福岡市ＰＴＡ協議会　西村早苗会長より福岡市教育委員会　星子明夫教育長に要望いたしました内容を一部紹介いたします。

❶ 学校教育内容のより一層の充実

★児童生徒へのよりきめ細かな指導を実現するために、国に対して、教職員定数の増員にむけた働きかけの強化をお願いします。

★義務教育期間9カ年を全学年上限35人学級とし、小学校においても副担任を置くなどきめ細やかな指導ができる体制をお願いします。

★学校教育の諸問題解決のための措置をお願いします。

●教職員の多忙感を解消し、個別指導など児童生徒と向き合える心と時間の余裕を持ち、本来の教育業務の時間が増やせる環境の整備をお願いします。

★読書教育の推進・充実。

●全学校に学校司書を1人の早急な配置をお願いします。

●図書室のスペースの拡充など、施設整備のための施策の推進をお願いします。

❷ 学校教育環境整備充実

★普通教室以外の特別教室などにも、冷暖房などの空調設備の設置を引き続きお願いします。

★トイレの使用・清掃をより容易にするために、洋式トイレの設置や乾式トイレの導入の対応を早急にお願いします。

★パソコンやタブレットを使う授業においては1人1台確保できるよう、ＩＣＴ教育予算の拡充をお願いします。

★安全かつ快適な学校作りを推進するために、老朽化や破損など、各学校施設が抱える課題への対応を引き続きお願いします。

❸ 特別支援教育条件整備のための施策の充実

★多様化する障がいのある児童生徒へ対応するため、全ての学校においてＥＶなど施設設備の充実、ならびにバリアフリー化の促進をお願いします。

★特別支援学級における教職員定数の改善(最大5人に1人の配置)の早期実現を推進するための働きかけの強化をお願いします。

★専門的な知識をもった特別支援教育支援員の増員と、より長期間勤務できる雇用条件への改善をお願いします。

★障がいのある児童生徒が居住校区の小中学校に通えるよう、ニーズに沿った特別支援学級の設置をお願いします。

★ＬＤ、ＡＤＨＤ、高機能自閉症など障がいのある児童生徒への支援体制の一層の充実を図るため、専門的な知識を持った教職員の増員をお願いします。

★特別支援学級に在籍する生徒の進路に対する積極的な支援をお願いします。

★特別支援学校における児童生徒の増加で教室が不足している現状をふまえ、教室の増設・新しい高等部の設置など、施設の拡充をお願いします。

★特別支援学校高等部に関して、生徒の重度・重複化の実態に応じた教職員定数の改善をお願いします。

★保護者や校区内居住者に対し、障がいのある人への理解と啓発を深める教育および交流の積極的な推進をお願いします。

❹ 児童・生徒の安全確保および危機管理のための施策

★死角のある場所を無くすために、必要な時に画像の確認ができる高性能防犯カメラの増設をお願いします。

★不審者の侵入を未然に防ぐためのセンサーライトの設置をお願いします。

❺ いじめ・不登校(保健室登校などを含む)解消および健全育成・非行防止のためのさらなる施策

★カウンセリングが即時対応できる体制の実現のため、スクールカウンセラーの小中学校全校配置を早急にお願いします。不登校対応教員、スクールソーシャルワーカーの小学校への配置拡大、全校配置をお願いします。

★子どもの健全育成のために養護教諭の増員をお願いします。

❻ 単位PTAがより一層の充実した活動を展開していくための支援施策

★全学校において、ＰＴＡ会議室の確保ならびに空調など不足している設備のさらなる充実をお願いします。

★地域と連携した学校・ＰＴＡとするため、地域の方が自由に交流できるコミュニティースペースの設置ならびに積極的な事業連携、相互交流、地域との交流を深める事業に対する支援をお願いします。

❼ その他

現在、社会情勢の急速な変化、保護者の価値観の多様化、学習指導要領の改訂に伴う新しい教育など、今後の児童・生徒を取り巻く教育環境は大きく変わっていく中、若年教員の増加と経験豊かな教員の大量退職が続いています。今後も教員の質の向上と、児童・生徒の持つ課題解決に丁寧に取り組むためにも、欧米同様の少人数教育を目指していただき、教職員の定数増員をお願いします。

中学校における部活動はあくまで個人のためのものではありますが、学力への相乗効果も踏まえ、その活性化のため、より一層の施策展開をお願いします。

学校は人をつくりあげていく大切な場所だと思います。そこで働く教職員、学ぶ児童・生徒、見守る保護者、地域も含めて現場の意見を大切に、より良い環境づくりを期待しています。

第２回　福岡市立中学校標準服コーナー

生徒検討委員が「いじめゼロサミット 2019」で標準服をお披露目！

令和元年８月20日(火)に南市民センターで「いじめゼロサミット2019」が開催されました。今年はサミットの終盤に、令和2年度から各中学校で着用が開始される、中学校標準服のお披露目が生徒検討委員により行われました。

新標準服の実物を間近で見た、高島市長からは「服の種類がたくさんあるようだが、なぜですか？」、「デザインについてどう思いますか？」などの質問がありました。それに対して、生徒検討委員からは、「軽く、脱ぎ着がしやすく、袖ボタンも気にならなくなった」、「ネクタイ着用で少し大人に近づいた気分」、「選択肢が増えたことで、多様性に対応ができやすくなった」などの答えがかえってきました。

最後に、高島市長からは、「先輩たちの思いを胸に、自分らしく、新しい標準服を着て、さまざまなことにチャレンジしてください！」とのコメントをいただきました。

委員長道津さん（筑紫丘中）と福岡市標準マークを考案した、河野さん（和白中）のコメントの一部紹介

【河野さん】

このマークの両手には、学校生活を送るうえでの安心感を包み込む形で表しました。ハートには、いじめゼロと、国籍の違う方や性的マイノリティの方や障がいのある方など関係なく学校生活を送ることができる、個性の尊重を表しました。これから新標準服を着る後輩たちには標準マークに込めた思いを大切にしていってほしいと思います。

【道津委員長】

私たち、標準服生徒検討委員は、機能性とデザイン性の両立を一番に考えました。さらに福岡市で暮らす、多様な人たちが選んで着られるように選択の幅を広げました。ただし、私達が新標準服を着ることはありません。皆さんがこの服を着るとき、生徒の意見が取り入れられた服であるということを忘れないでください。ぜひ、みんなの標準服を大切にしていきましょう。

会場で見ていると、生徒の言葉での説明や感想は、会場の小学生や保護者の皆さんにとっても、きっと分かりやすかったと思います。検討委員のみなさん、ありがとうございました。

【新標準服情報】（市立69中学校）

○令和２年度からの服装

- ●新標準服導入 …… 65校
  （移行期間は各校で設定）
  内１校は新標準服と従来型の併用
  （ずっと、どちらでもよい）
- ●学校独自の標準服 …… ４校

○ネクタイ・リボンの採用状況

- ●ネクタイのみ採用
- ●ネクタイ・リボン採用
  （計37校）
- ●採用しない …… 25校
- ●調整中 …… ３校

早寝 早起き 朝ごはん

啓発講演会

主催：福岡市教育委員会・福岡市ＰＴＡ協議会
令和元年7月2日　福岡市立南市民センター

ちゃんと食べてちゃんと生きる
～未来へつなぐ和食の魅力～

今回は、料理研究家で管理栄養士でもある、公立大学法人福岡女子大学客員教授の、村上祥子氏にご講演をいただきました。

村上祥子氏のご紹介

村上氏は福岡女子大学で栄養指導講座を1985年より30年担当。治療食の開発で、油控えめ一人分でもおいしく調理できる電子レンジに着目。以来【電子レンジ調理の第一人者】として、活動を広められてこられました。その中で『食べ力®』は、村上氏の名言とも言えるでしょう。

楽しくお弁当を

電子レンジ調理の第一人者村上氏の、電子レンジを使っての楽しい実演が行われました。

それは、とても簡単で、時短でできるお弁当作りでした。会場の皆さんが一斉にメモをとる姿がとても印象的でした。

三つ子の魂百まで

日本伝来の「和食」。ごはん・お味噌汁・おかず、といった、皆様もよく知るシンプルな食事。このような和食を、子どもの時から毎日経験することで健康な体が手に入るということを、村上氏自身の幼いころを振り返りお話をして下さいました。そして、幼いころの脂肪細胞の数が大人になっても続くということも教えて下さいました。私たちもよく知る言葉「三つ子の魂百まで」その言葉を改めて実感しました。幼いころの食の大切さ、日本伝来の和食のすばらしさを知るお話でした。

村上氏は、今回の講演会の翌日に、『徹子の部屋』に出演。日本国内はもとより、海外でも講演や実演をされ『食べ力®』、『日本伝来の和食』について、幅広く広められております。自らの経験を明るくユーモア交えて語る村上氏に、会場からは笑顔が絶えませんでした。

第14回

Stop・ザ・非行　ふくおか

日時：令和元年7月27日土曜日　13：00開会
会場：ウェルとばた大ホール

北九州市大会

第14回目となる本事業も改元を迎え、これまで蓄積・共有してきた成果を新しい時代に活かすべく福岡市・北九州市・福岡県それぞれのＰＴＡから集まった参加者で、令和元年の記念すべき大会が（一社）北九州市ＰＴＡ協議会主管によりウェルとばた大ホールで開催されました。

大会の冒頭では、『北九州市子どもを育てる10か条』が唱和され一つ一つは当然のようなことですが、10か条の中でも「聞く時は　子供の目を見て　心を聴いて」という言葉は、自分自身を振り返って「あのときもうちょっと違う言い方もできたなぁ」などと反省しました。北九州市に子どもを育てる10か条があるように福岡市にも『家庭教育10か条』があります。どちらの条文もインターネット上で見ることができますので、みなさんもぜひご覧になってみてください。

基調報告
「生まれてきてくれてありがとう　～少年非行の現場から～」

報告者
福岡県警察本部
生活安全部少年課
北九州少年サポートセンター
少年育成指導官
係長　堀井　智帆　氏

少年サポートセンター

福岡県警本部少年課の附置機関として県内5箇所に設置されています。少年非行に対応する専門の警察職員で構成されており、関係機関やボランティア団体等と連携して少年相談・街頭補導・少年の立ち直り支援・広報啓発などの活動をおこなっている機関です。

少年育成指導官

学生の頃から、子どもたちを助ける仕事につきたかったという堀井さんは、就職先を探すなかで一生子どもたちのそばで働ける職場として、少年育成指導官を選ばれました。

少年育成指導官というお仕事は、警察のなかでも専門採用といって特定の技能を持つ人を専門の職業として働いてもらうための制度で、就職してから退職するまでずっと続けることができます。

その、少年育成指導官として働く今をお話してくださいました。

子ども時代の総決算にむけて

「思春期は、子どもたちの総決算の時期」思春期までに体験してきた、プラスの経験やマイナスの経験を全部まとめて決算しているだけで、思春期に問題行動を起こす子どももいれば、起こさない子どももいる。

問題行動を起こす子には周囲のサポートも必要で、なかには少年サポートセンターに相談があって、サポートする子どもたちもいる。

非行と言われるような子どもたちの問題行動は、子どもたちからのメッセージやSOSなのだ。

こんな、思春期の子どもをかかえている保護者のために、提案したのが「納豆ごはんの日」。

「納豆ごはんの日」とは、「今日のごはんは納豆ごはんにして、子どもと目一杯遊ぶ日！」。

このお話を聞いて、私たちの家庭においても、家事（例えばごはんの準備）や用事があっても「今日は子どもと向き合う日！」と決めて子どもの近くに座ってみたり、話しかけてみたりと、私たち保護者も子どもとのコミュニケーションを大切にし、まずは会話ができる関係づくりに取り組まないといけないと思いました。

講演
「心がかぜをひくとき」―安心感と自立―

講師
西九州大学
非常勤講師
吉村　春生　氏

吉村先生は、小学校の教員を経験されたのち子どもたちの笑顔のためにと臨床心理士を目指され見事に臨床心理士としてご活躍中です。

たくさんの講演の合間を縫ってご参加いただき、ご自身の経験や体験談を交えながら短いストーリーでいくつもの教訓をお教えいただきました。1時間超の講演から、一番心に残ったお話、そして吉村先生ももっとも熱く語りかけてくださったと思うお話をご紹介させていただきます。

感情の動物

人間は感情の動物と言われるんです。その中で負の感情は影響が大きいと言われてます。負の感情の中でも不安という気持ちは特に影響が大きいと思っています。それは、人間が生まれてからの1年間「食べる・寝る・出す」の生きるための三原則を他人に頼っているからなんです。他の動物はこんなこと無いと思います。人間の赤ちゃんだけが他人に頼って成長を待っています。とても不安な状態だと思います。

不安の反対は安心感です。この不安という感情を安心感にかえることが大事なことです。

この安心感が、心のエネルギーとなり人生という飛行機の燃料になります。

人生という飛行機は、思春期になると機首をあげます。高く高く飛び上がろうとします。その時にエネルギー不足だとうまくアガっていけない。思春期になるまでは高度を維持して飛んでいたけど、思春期になって機首を上に向けるとより多くのエネルギーを使って飛び立たねばならない。そのときにエネルギーが足りないといろんな現象が起きます。例えば、「悪い方に向かって飛んでしまった子に同調してみんなで悪いことをしてしまう。」これが非行です。

エネルギーが切れてしまったら、安心感を得てエネルギーを貯めればいいんです。安心感を得たいとき人間は「甘え」ようとします。甘えたい気持ちを満たして上げることで子どもの心のエネルギーは溜まっていきます。

子どもたちの成長に寄り添う保護者として、普段から子供と向き会い、心のエネルギーがあふれるように残された子育てを楽しみたいと思います。

最後に先生が紹介してくれた甘えようとしているサインや安心感のモトになるものを紹介します。

あいさつ、笑顔、抱きしめるなどのスキンシップ（部活後のマッサージ）、手当てする（痛いフリを聞く）などなど

コラム

福岡市立筥松小学校
校長　振原 基治

「自分ごととして」

今から五十六年前の一九六三年は百歳以上の高齢者の数は一五三名だったそうです。今年（二〇一九年）はその数が七一、二三八名となりました。何と四五〇倍以上にもなっているのです。将来の日本や世界の人口等については色々な統計が出されており、多くの学者が様々な危機を訴えています。また、気象の変化による甚大な被害も各地で発生しています。

「目の前の小学生、中学生が、どのような知識や能力を身に付けていれば、これからの将来充実した日々を送ることができるのか。」

私たち大人が真剣に考え、真摯な態度で力の育成に励まなくてはいけない時期を迎えています。折しも、来年度は「新学習指導要領」の全面実施の年です。（中学校は二〇二一年度）新学習指導要領の中に「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」という文言があります。一言で「未知の状況に対応できる。」と言っても、日常どの様な指導を重ねれば良いのか、深く考える必要があります。「これは福岡で起こった事ではないから「自分の身には起こるはずがない。」等、入ってきた情報を他人ごととして捉えるのではなく、常に「自分ごととして捉える。」この繰り返しが「未知の状況に対応できる力」の育成に繋がっていくのではないでしょうか。

令和元年度　福岡市PTA協議会主催

会長合同研修会

令和元年10月16日　西鉄グランドホテル

株式会社ふくや
代表取締役会長　川原　正孝氏

味の明太子で有名な「ふくや」の経営理念は、戦後の動乱期において「地域社会に生かされた」ということを忘れず、社員一人一人が地域社会を大切にし、それが実現出来る職場環境作りと社員の育成を第一とするというものでした。

その理念を受け継ぎ、現在でも社員の方が地域ボランティア活動を行いやすいような職場環境を作っており、その中で PTA 会長を務められる方も多いとのことでした。

また他にも、自己啓発の為に様々な資格取得を社員の方へすすめているという話もあり、素晴らしく感じました。

参加された会長の中には会社員の方も多くおられ今後の PTA 活動において非常に参考となる研修会であった思います。

小学校・中学校・特別支援学校PTA

担当副会長交流会

9/19（木）に行われた担当副会長交流会では、福岡市の小・中・特別支援学校の担当副会長が参加して開催されました。

C&S 音楽学院長　毛利直之氏による「子どもたちからのSOS ～子どもたちの発達段階における支援の在り方～」と題して講演がありました。

子どもたちとの向き合い方、関わり方など、母として、親として、もう一度原点に立ち返る内容に、会場は大きな感動に包まれました。学院卒業生の渕上未来（ふちがみ　みらい）さんによる迫力のある歌も披露されました。

グループディスカッションでは、「携帯・スマホについて」「入退会問題について」のテーマで意見交換がなされ、とても充実した交流会となりました。

毛利 直之氏
音楽学校
「C&S 音楽学院」学院長

第75回 指定都市PTA情報交換会　新潟大会

大会テーマ　**すべては心豊かな子どもたちへ**

令和元年9月12日（分科会）13日（全体会）

この情報交換会は、毎年全国から16の指定都市PTA協議会の役員・関係者が集い、それぞれの協議会活動の成果と課題を共有することを目的として行われています。

1日目は開会行事が行われ、多忙の中、中川八一新潟市長のあいさつで始まりました。分科会では、「組織・運営」「研修活動」「地域連携」「広報活動」に分かれて、新潟市の提言をもとにどの分科会も活発な意見交換が行われました。

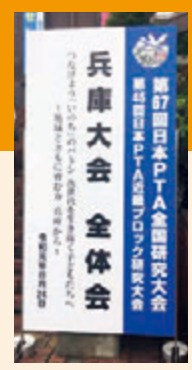
2日目の全体会では、各分科会の報告の後、「子どもの心を育てる言葉かけ～やる気にさせるコミュニケーション術～」という演題で、一般財団法人 日本ペップトーク普及協会 代表理事の岩﨑由純氏の講演が行われました。子どもの自己肯定感を育み、元気を与えるコミュニケーションの取り方や、それぞれの成長段階に応じた言葉かけによって子どもの心を育てることの大切さを熱く語られました。子どもをやる気にさせる「短くて」「わかりやすくて」「肯定的」な励ましの言葉かけを実践したいと思いました。

（札幌市・仙台市・新潟市小中学校・さいたま市・千葉市・川崎市・横浜市・相模原市立小中学校・名古屋市立小中学校・京都市・大阪市・神戸市・広島市・（一社）北九州市・福岡市・熊本市）

第67回 日本PTA全国研究大会　兵庫大会

スローガン　**つなげよう「いのち」のバトン**
次世代を生き抜く子どもたちへ
～地域とともに育む力　兵庫から～

令和元年　8月23日（分科会）・24日（全体会）



平成7年1月17日の阪神淡路大震災から24年。様々な災害が次々に発生し、震災の記憶・報道が薄れつつある中で、「かけがえのない命」や人と人との絆の大切さを伝えたいとの兵庫県PTA協議会の熱い思いの伝わる研究大会でした。

私が参加した第5分科会では、PTA広報紙やさまざまな媒体を活用して、魅力あるPTA活動を伝えるための取り組みが提言され、熱い討議がなされました。そして、「しあわせを運べるように」という震災からの復興を願ってつくられた歌を通して、想いを伝え続けることの大切さを感じました。

全体会では、「子育ては心理学でラクになる」という演題で、メンタリストDaiGo氏の講演が行われました。Q＆A形式で、私たち保護者の悩みに心理学の視点から答えてくださいました。まわりを変えようとするのではなく、まずは自分が変わること（行動する事）が大事という言葉が心に残りました。

ふよう132号モニターアンケート

- 中学校の標準服コーナーが写真付きでわかりやすく、よかったです。
- 内容はとても良かったのですが、一番伝えたいところが目立たない気がします。字ももう少し大きいほうが読みやすいです。
- 広報紙などによってPTA活動を理解してもらい、PTA活動への参加・啓発をしていくことが大切だと感じた。
- 広報紙コンクールの推薦校の広報紙をいくつか紹介してもらったら参考になると思います。

今後のふように望むこと、その他お気づきの点など

- 型にはめている感があって固い。曲線や丸をつかってやわらかくするといいのではないでしょうか。
- PTA役員のやり手が減少し、決まった人が続けてやっている現状を改善できるような内容が必要では。

編集後記

令和元年度最初の「ふよう」はいかがでしたでしょうか？

令和元年度の広報委員メンバーでの初めての作成でドキドキでした。不安のなか、取材の割り振りからはじまり、細かな校正等々の作業がありましたが、みんなで話し合い、楽しみながら作ることができました。

多くの皆さまに福岡市PTA協議会のたくさんの活動をお届けするとともに、今後も親子で読みたくなる紙面づくりに取り組んでいきたいと思います。次号以降もどうぞよろしくお願いいたします。

広報委員会　切江　龍二

広報委員紹介

委員長
柏原中　切江　龍二

副委員長
博多小　大木　裕治

第133号主担当者
博多区　那珂中　城家　美和
東　区　香椎第3中　立石　千恵
西　区　下山門中　渕　雅子
城南区　田島小　吉岡　知美

第134号主担当者
東　区　舞松原小　宮木　啓輔
中央区　小笹小　中山　幸恵
特別支援　福岡中央特支　本木　綾美
中央区　平尾中　大城由香利
南　区　三宅小　土井　浩美

第135号主担当者
西　区　今宿小　三角　秀幸
城南区　城西中　小笹原里彩
早良区　百道中　堤　利江
早良区　原小　古相　純子

校長
小学校　筥松小　振原　基治
中学校　次郎丸中　鶴　眞

市P協担当役員
今宿小　辻　宗志
香椎第2中　川添　浩美
田村小　波多江真一
屋形原特別支援学校　松原　明子

お詫びと訂正

令和元年7月16日発行の「ふよう」132号で誤りがありましたのでお詫び申し上げます。修正版をホームページに掲載させていただいております。ご迷惑をおかけしました。